

令和7年度 牧之原市立（勝間田小）学校 学校評価

校長 名

藁科昌樹

1 昨年度の成果と課題

○温かく聴く、話すなどの授業規律が定着している。
○何事にも一生懸命取り組む姿が見られる。

●授業でよりよい考えを生み出すところまでは至っていない。
●自分から動き出す場面が少ない。

2 本年度の基本方針（経営の重点）

（授業）温かい聴き方・話し方をして、理由を増やす。（よりよい考えをみんなで生み出す授業づくり）
（生徒指導）きらりを見つけて、伝えよう。（自分らしさを知り、心が満たされる子の育成）
（小中一貫）こころざしを育てる
（地域連携）学校と地域が力を合わせて学校の運営に取り組み、「地域とともにある学校づくり」を目指す。

3 具体的な取組

| | 目標 | 具体的な取組 | 成果目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------|---|---|---|----|---|
| 授業 | 温かい聴き方・話し方をして、理由を増やす。（よりよい考えをみんなで生み出す授業づくり） | ・授業を見合う会、授業エデュケーター期間の設定 ・スキルカードの活用 ・教師による聴き方、話し方の価値づけ | 【児童評価】自分の考えをもち、理由を付けて話すことができた。（80%） 【職員評価】自分の考えをもち、理由を付けて話すことができるように指導している。（90%） | A | ○多くの児童が授業で自分の考えを持つことができるようになってきた。 ▲よりよい考えを生み出すための手立てを再考していく。 |
| 生徒指導 | きらりを見つけて、伝えよう。（自分らしさを知り、心が満たされる子の育成） | ・個人の目標設定と振り返りの場の設定 ・全校での認め合い活動 ・きらりカードの励行 | 【児童評価】自分のきらりを見つけることができた。（90%） 【職員評価】児童が自分のきらりを見つけることができるように指導している。（100%） | A | ○きらりは学校活動の様々な場面で定着している。 ▲きらりを次の活動にどうつなげていくかを検討する。 |
| 小中 | 榛原中学校区連携構想をもとに、小中一貫教育目標の達成を目指す。 | ・自己決定の場の確保 | 【児童評価】自分の決めたためあてに向かってがんばることができた。（95%） | A | ○自分から意欲的に活動する児童が増えている。 |
| 地域 | 学校と地域が力を合わせて学校の運営に取り組み、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 | ・地域人材の積極的な導入 | 【児童評価】ふるさと（勝間田）のきらりを見つけることができた。（95%） | A | ○地域の特色を生かして充実した活動を行うことができています。 |